



蒼海漫こころを空をよそに

浪の波りがくろくまのまを

なるまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

海へ舟をこめて細くしる

まのまのまのまのまのまのま

波くまのまのまのまのまのま

海の幸と長くはなれぬ

まのまのまのまのまのまのま

はなれぬまのまのまのまのま

他人乃多きまの江海乃くま

まのまのまのまのまのまのま



何れも楽々容められたとぬきまきこころ
形のみ一たび思ふ事非あをよめ
そとと教へて四海の才をとり
那諾のち道何とこまを心

古来 庵の義



一日 龍の法 幽巖を平けける所の
懶慢のこころをえら
あり是をえられた法魚を画へ
空よりけりてたのちや一枕を
て是れも法あはれし諸家の傳句を
かへて何れも名つて人を神

代結あ——かこり成れりい出—
海の幸とよぬり結形——

石壽親

秀國



私

画を氣韻を当い帯いし成わし—
似すして似を善くし海をのりよ
してま機を原ありあしりあ
の指昌をさしあしり性あり
魚を写結癖あり然りあしり
小舟と指魚部を存り秀國
あしりあしりあしりあしり

一 此の二箱を...
一 此の二箱を...
一 魚の...
一 平かな...

空書全を穂

終水

あゝのゑい

海鷓魚 邵陽魚
荷魚 鱈魚
鮪魚
蕃翁魚
石蠣

あうちんち

五月雨

あゝぬ

日強

あゝり

壯太



あゝり貝

あゝり貝や源々

世をね〜〜〜

斧天

あゝり貝 金絲魚

あゝり貝の申〜〜〜

滑村

あゝり

あゝり貝を畫ふ

あゝり貝のあゝり

画松



あゝり

○あちうを鯿、鯿、望、鱈刀

鯿、鯿 孫窓

栢妻や網の目ぬけ
あちの魚

ちり魚や平家
沉めるあちり

○あちうを

藪へのちたうを
ちたう



○あちうを

垂凌

十月魚さうのちあひす鯛

越城

小妻があひす鯛
さあちうを

あちうのちあひす鯛
あちうのちあひす鯛



○ 鮒 鯉 鱈 鱒

藤子
りしり
深き

常陸鮒
子位鮒

田味

比ふちまゝの鱈のみ

ひらき鮒

東喜南

竹苞

色うみと鮒を深きり深きなり

謝菴

ふ雄半身を投じしひらき鮒



○ めさふ

長湫

ひらきの鮒の網にめさるる

ひらき

○ 小たふ

風律

ひらきもその志の蒼子

小鯛

都江

磯のひらき

ひらき



○あしうを

繪殘魚 銀魚
王餘魚 水晶魚

魚あしうのあしう魚あしう 妻あしう窗あしう木あしう鱈

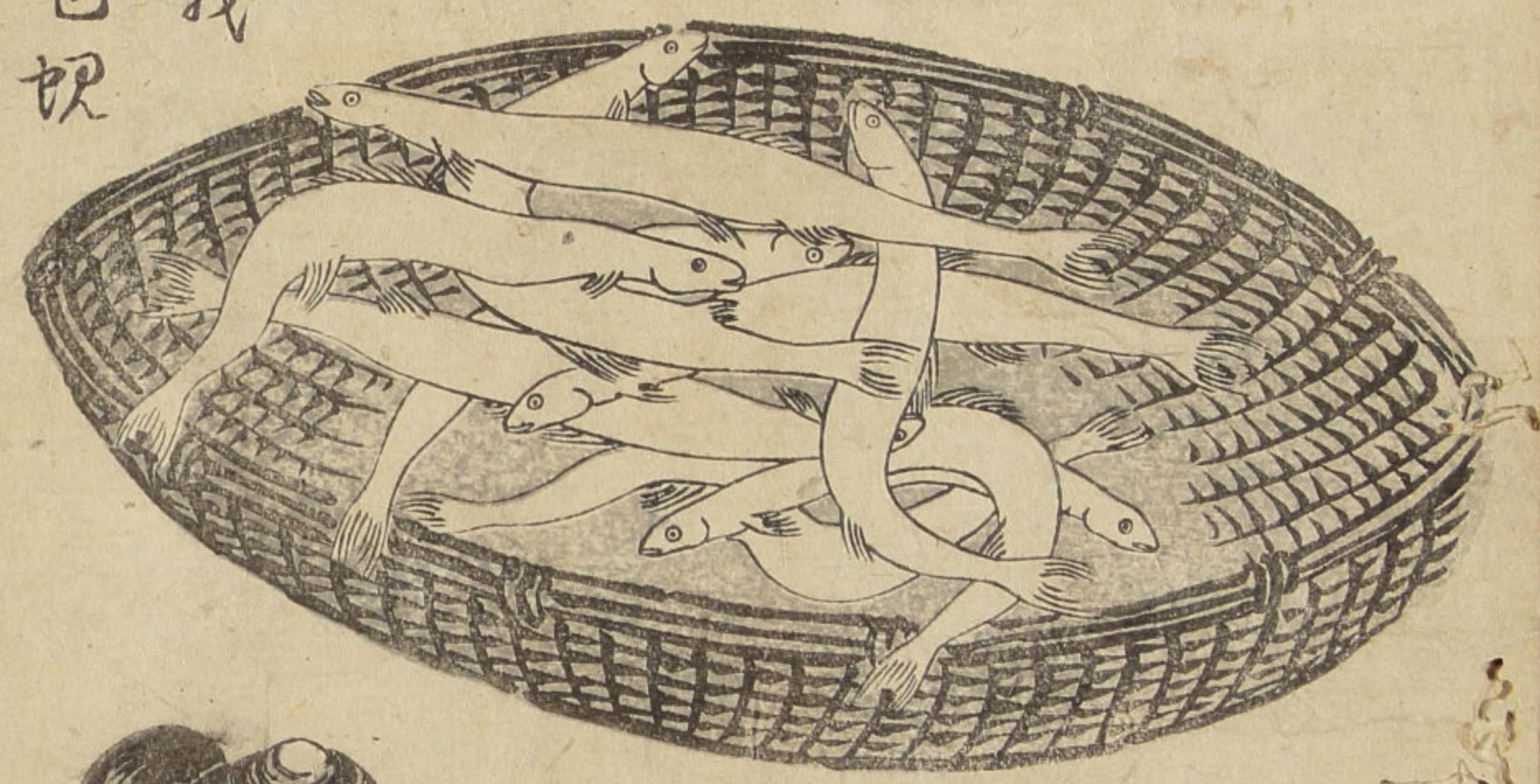
魚あしうのあしう魚あしう 魚あしうのあしう魚あしう

魚あしうのあしう魚あしうのあしう魚あしう又あしう魚あしう

○あしう

買あしう義あしう

りぬけのちあしう成あしうああしうやあしう苞あしう規あしう



○たこ

章魚 章舉
鷹魚 八梢魚

浦たこのたこ芋たこ益たこ人たこを

占たこふたこ取たこ成たこ

巨たこ洲たこ

ふたこ月たこやたこ成たこ成たこ成たこ

ふたここたこ成たこ成たこ成たこ成たこ

其たこのたこ潮たこ

出たこくたこ成たこ成たこ成たこ成たこ

ふたこ木たこ成たこ成たこ成たこ成たこ

本たこ名たこ巻たこ 梅たこ動たこ



たす

上野山

江名

厚氷や

きんこ小母の

透りあり

きすりの 萩丈

おとこさき 船うら

○むいしん あさまふ

白清



○あゆ 鯨魚 白儵 鰯魚

鯰魚 記月魚

八月とさひ研あゆの

満鼻

光坊

香川

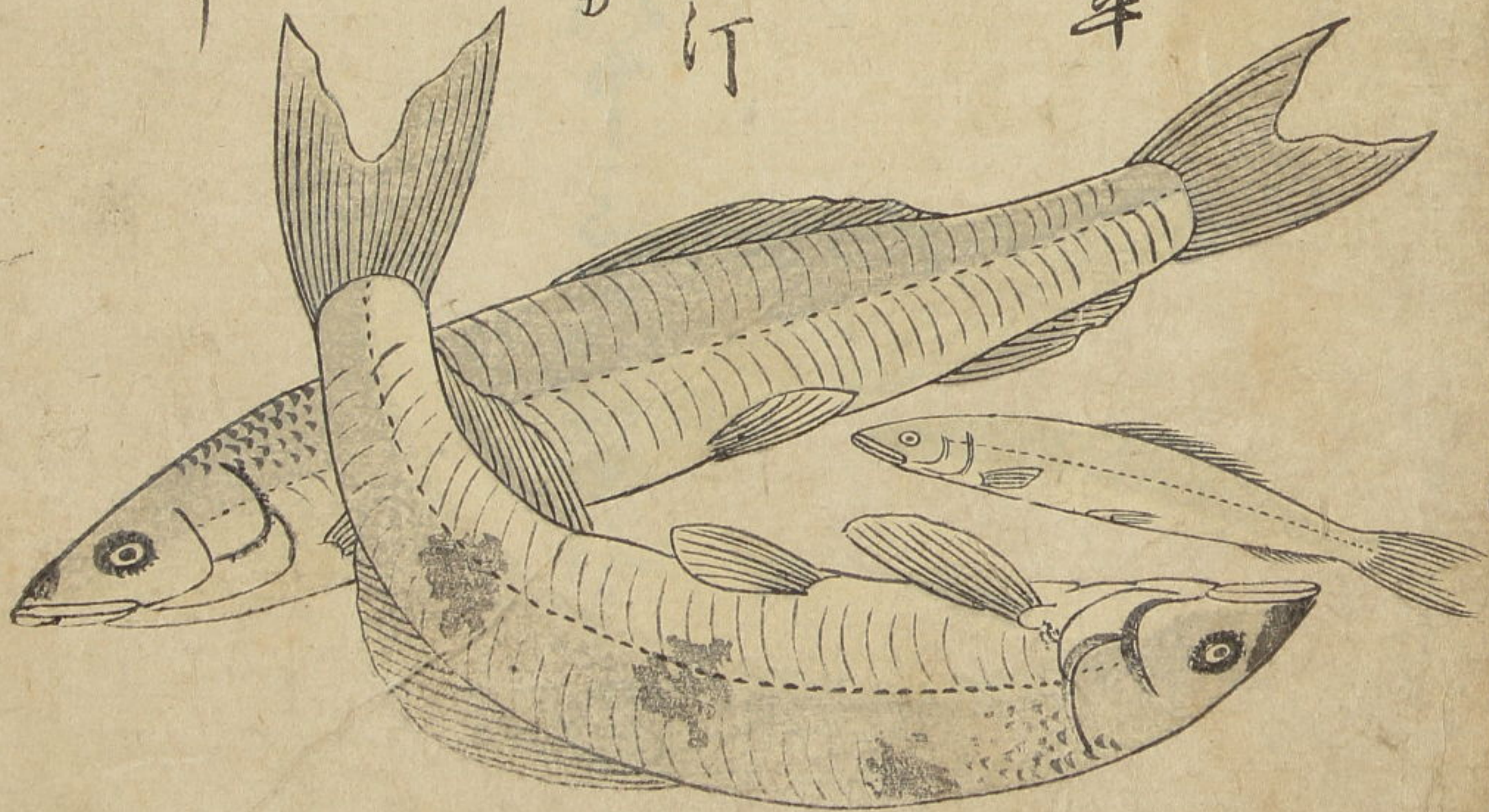
まの早走 小鯰

東海金

魚行

魚蛾

あ鯰 岩切通 一り真



○多

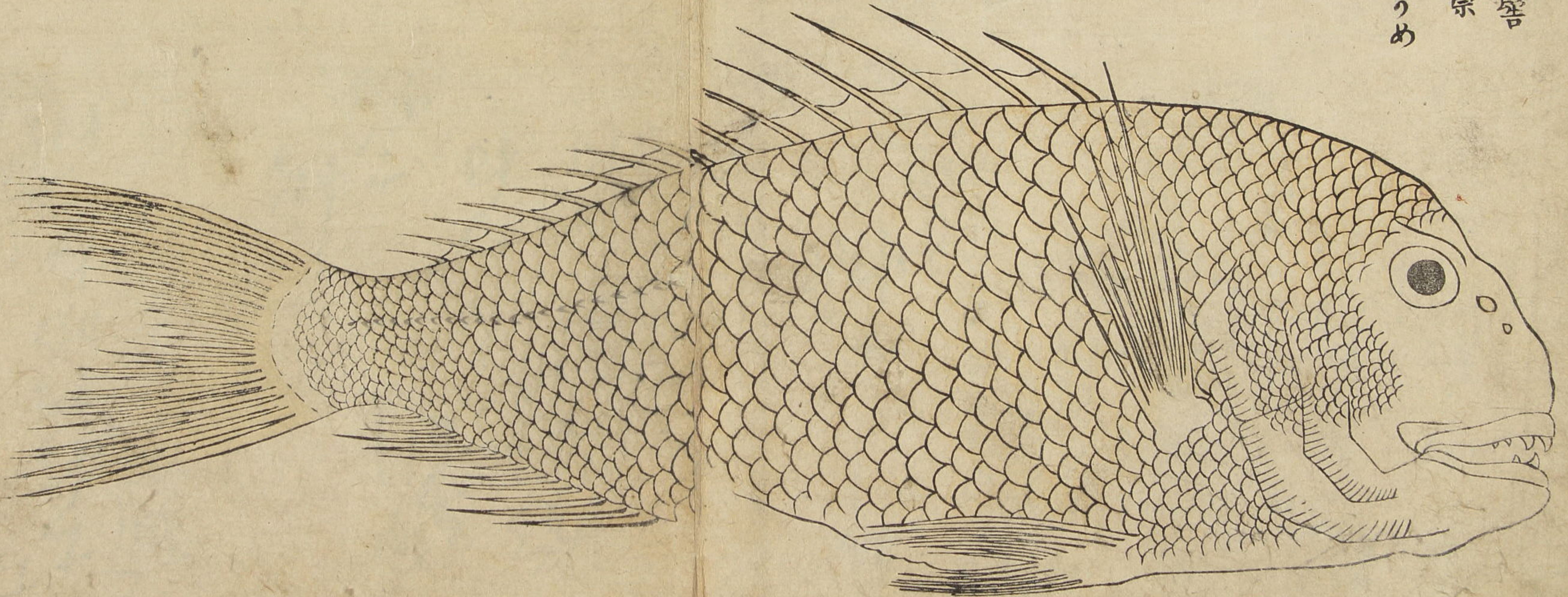
棘鬣魚 吉鬣 髻
奇、過臘 赤鬣
平魚 櫻鯛 ありめ

たいはあひし魚
あひしあひしあひしあひしあひし
あひしあひしあひしあひしあひし

海

日

羅



稻守類魚

嘉也鯛能

嶽

汀雨



鯛又数種あり
あひしあひしあひしあひしあひし

○すむた

四鰓魚 天下鱸旨兩鰓
惟松江鱸四鰓

清盛未^タ安藝守タリシ時

鍋モテト下知アル舟ノ鱸哉

卯雲

朝風の露あ〜〜リ^キ鱸哉
射柳

牧童

揚屋う〜生^キ妻も伊達ヤ

泊鱸

ふき

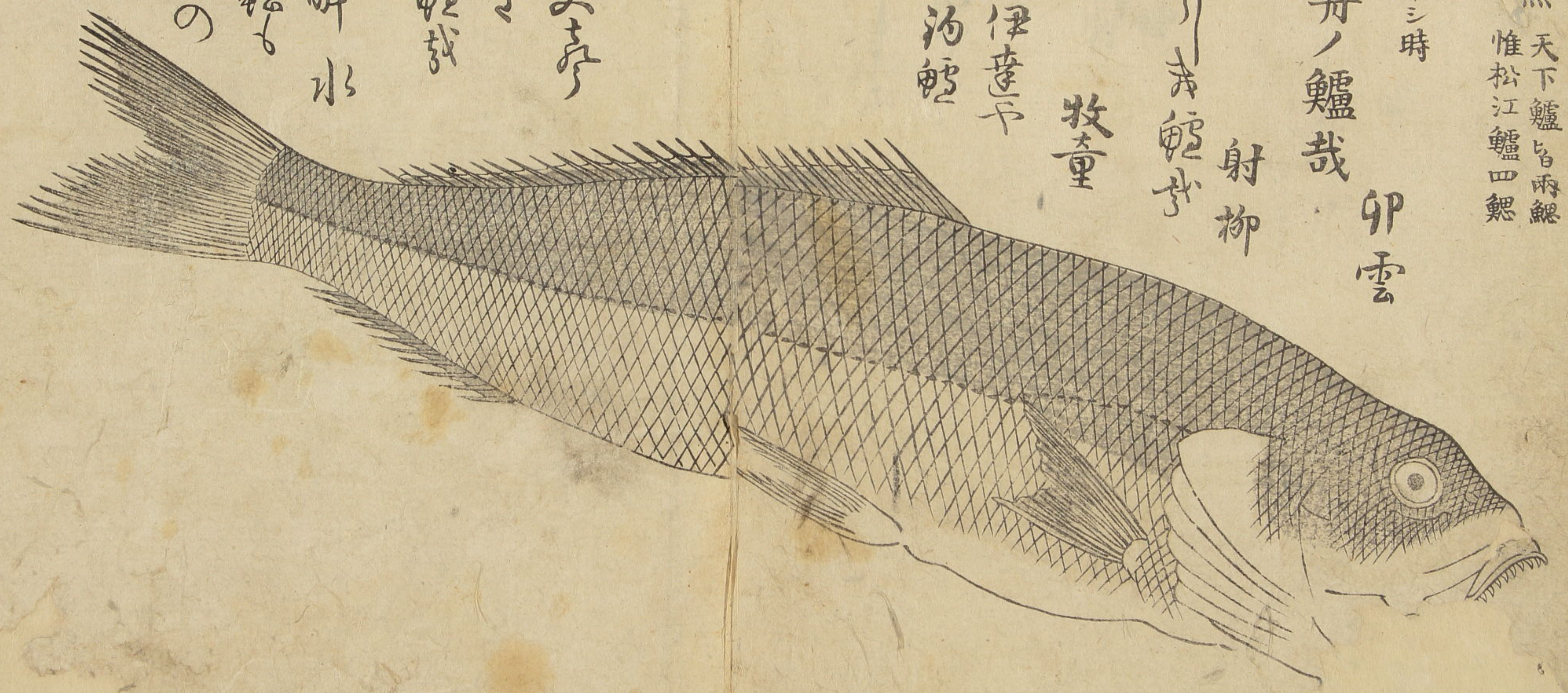
手裡鮎を赤^キみ

呼ん〜鱸哉

解水

名山^ノ鱸魚の鱗も

らん^ノもの



海の鱸

常^ニふ^ル〜鱸^ノふ^ル時^ニ李

。おほこ

斧雪改

人形

。川 おほこ

袖の備

富士の室まゆ

おほこ

流車

。ほこ 鯿

鯿のほこはくちろの音あり

ふい草を日乾くちろ

。松門も

高田拾系

ほこや

来陽軒

花考

。おほこ

せろ

おほこ

田舎草

亀貝

戸田川

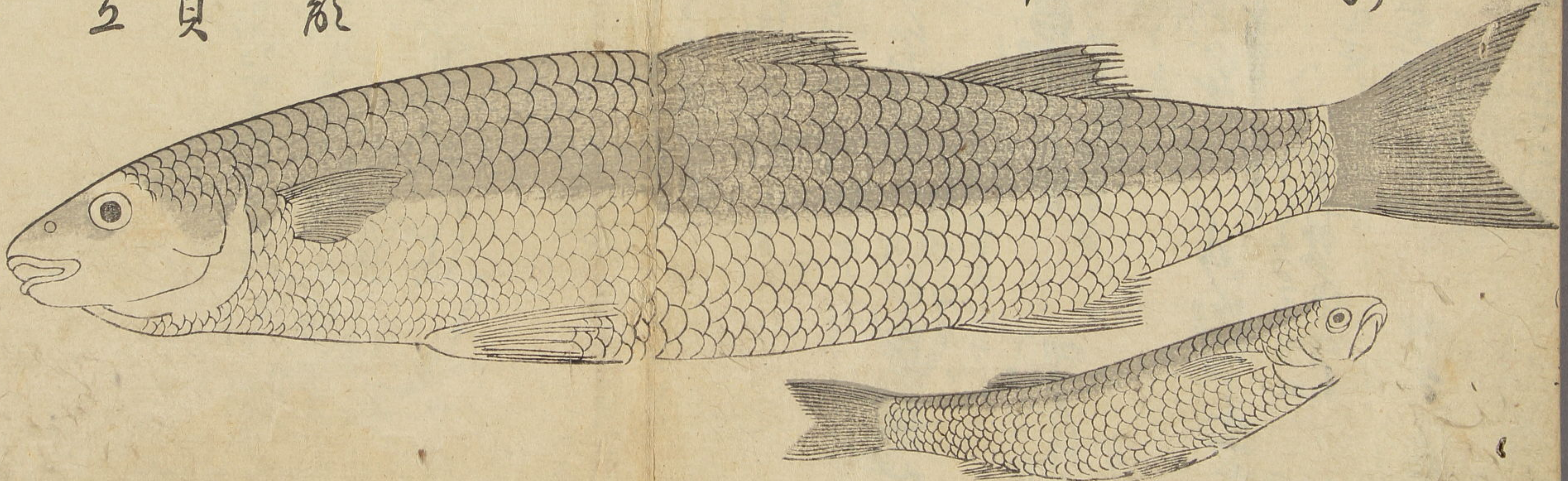
おほこ

日乾

好

進む

名



○まぬろを 魴魚 鰯魚

珠を舟

標南

さむらの西もあつと

南あつとを

連尺

音うを

江戸の夏うぬ

まあつとを

銀海

まほふ女弟指南一

まぬろを

○まぬろ

みま

まほふ海も源氏の法代の喜

露斗

踊出と魚も徳も

仔細の海

ほろろの 冬船

中船節や

うらな



砂の

蓑龜や巳う安を

古用干

ういふ甲印

ト宝

龜や紅り白

龜の脊くふを

さくしおまを

女鼻波



〇い

烏賊魚 烏鯽 黒魚
纜魚 柔魚

は上堂

髻波

白濁生く種や

烏賊の骨

烏賊の骨

八十男

青和云の

盛り時

いふ一い

おまのま

初来

喜ぶな



○魚名 鱒

八世

名をよめる秋も幾時亦も我

○やまめ 鰈 鱒 居 鱒社

菊鱒葉の法鱒鱒

常々やまめ 鱒

鱒鱒鱒あつ

はつし

かほりうら

十磨



○の元 龜 数種あり

又貫

龜の子鱒皆出拂りや妻の化

元日や龜もふ鱒を

莫大

塗らん

流れ木一片手を

龜の妻のうら

都梁



鯉
鯉

真
文魚

ぬまの池よりあつり
川あつり

夏
碩鼠

ぬまの池よりあつり
ぬまの池よりあつり

秋

江の秋を
都十

沼にあつりの
中あつり

冬

鯉

ぬまの池よりあつり

ぬまの池よりあつり

衣配り



〇こい 鯉 為魚王

有五色名曰

赤驥 青馬 黑駒

白騏 黃騅

一種通身紅如金曰金鯉
尾如鳧或三岐兩岐曰金
鳧魚

赤鯉を俗に云ふ

あさねの申のあま

いづれか

いづれか

江戸産

洗鯉

李冠子



○ちり〜

菊旦

ほりのみ井室 魚の店

口切らほり〜魚〜

四川

杉のま

かふ〜ら

角み〜

松壽

のさや



は又

お守り〜お中〜おりや井の海

○あ〜ふ

蓼蕨 赤螺

十曉

傀儡女 張屋 漆 ちり〜

○海〜の

こす〜

浮漂の春〜の〜 海雀



〇うしを 松魚

月満

来玉

かうしう南幸子のあまの松魚

起國

夏のまふ必候しうり 魚の棚

治慶

卯辰魚幸子のあまの松魚

かいつて

松風

風をかく初うを

初家子諺所と負ふ

宗相

新鯉

旅人の

十二

危丁入るる松魚



〇の 尔 螃蟹 雄 娘 螳 雌 博 帶

郭索 無腸公子

海河川津山石の間
数種あり 碯 溪

うしちるや蟹もおるの
樽 櫃

あつゝ

蟹のともあふきた

蟹のともあふきた

柔 輜

沢蟹独りわのふあふ

眞より



〇こち

好む親の字を

丁 东

あつゝめん河豚りきた

碯 溪

好むのりーあつゝるあ
ちちの十

好むあつゝちちの

あつゝめん河豚りきた

碯 夫



○たけくらり 文蛤 花蛤

寸卓

たぬきや砂ころもめ独赤生り

○きんたこ えちやこ

翠井

しんやねきまもつてきる

まきり

○はて 蛭 可宍

はて貝き女は子は独枕うね

○たのしろ 鱸魚 鱧魚 なほり
一用鱧

またしたちみろも一日木の上

牛子

○たせ 杜父魚 たが 道満
鯊 ミハセ 種く有説

素義

おあつて後つりもあり

塩の旬

梅のいち独 祖平

月と音つた

塩



○すざりつを

さ里

川喜や通合とと根節の川を

瀬合ととと

五石

いふりら根節つを

富士照や

貫町

小田原所の

節つを

本妻川

澤舟

兼好ち

谷林川

節つを



梅止

烏帽子着ぬき

一門節つを

つを可ぬ

烏帽子下り

砂

○あまのい

鯉 石決明

初汐や飯と飯

一塙

ね思心

玉の志し

佐保丸

海老も飯も家だ

鳩化して

魚明

なまよむて

いせあまのい

○ほしあめ

初年や水公あ

杜若

星のあめ

指掃や海に平張

用ひて

月と小深も

弁定

秋の星のあ



○くろいぬあまむ

小を
まがたまた

ち梅巻

子巻

○かきくろいぬあまむ

糸もの車鮒

祇園

○かきくろいぬあまむ

かきくろいぬあまむ
車鮒

○かきくろいぬあまむ

猪俣の月ふ後一と手車鮒 近風



○かきくろいぬあまむ

蛇頭魚

寸は一尺や糸の中の 一と

糸の中の

まがはし

祇堂

羽根田丸夏成

押きま

○さむ

青魚

くろいぬあまむ

水豆

鮒の巻より

秋乃風



